

＜地域共生社会の拠点＞

あったかふれあいセンターってどんなところ？ Vol.1



子どもから高齢者までどなたでも利用でき、体操やレクリエーションなどの様々な活動を通して楽しんで過ごせる場所となっています。また、集い以外でも訪問や生活支援及び行政へのつなぎ支援など、地域生活を支える大切な場所です。

31市町村55拠点 254のサテライトがあります。

(令和5年4月時点)

職員が
全力で
楽しむ



いの町あったかふれあいセンター
長崎 早津紀 氏

取材 目的

退院時や在宅生活の支援をする中で、独居や閉じこもり傾向の方など、不安を感じることはないでしょうか？自立支援や社会参加に向けての取り組みはどうしたらいいのか、悩むことはないでしょうか？私は地域生活を支える上で、あったかふれあいセンターとの連携は非常に大切であると感じており、今回、高齢利用者を中心に取材をさせていただきました。

どのような方が利用しているの？

Q 利用開始の流れ



A ご自身で参加を希望される方や、ご家族が閉じこもり傾向などに不安を感じ、利用を希望する方もいらっしゃいます。現在は、地域包括支援センターやケアマネジャーなどの関連職種からの依頼が多いと思います。
利用している方は、**介護保険を利用していない元気な方から、要介護1・2の方、認知症の方など様々な地域の方々が利用**してくださっています。

Q 病院側からの利用依頼

A 私が在籍している3年間では、退院時の利用依頼はなかったです。入院前に利用されていた方で、退院後も利用希望があり、ケアマネジャーと生活状況を確認して、再び利用される方はいらっしゃいます。

Q 関連職種からの依頼内容

A **介護保険サービスからの卒業を検討**しているが、その後の**生活に不安**を感じている方が多く、ケアマネジャーと情報を共有し、週1回程度、あったかふれあいセンターに来ていただきながら、安心して、卒業に向けた取り組みを行う方がいらっしゃいます。
また、日常生活動作が自立している方でも、閉じこもり傾向で**人との交流が少ない方**や**軽度認知症の方**など、**地域との繋がりを希望**され紹介されることもあります。
介護保険との併用が可能ですので、最近は**インフォーマルサービスへの移行に向けた取り組みが増えている**と思います。

Q 利用が困難な方



A 当施設はトイレまでの距離が約100m程度あるので、まずはトイレまでの移動ができることと、休む時はご自身やご家族の方が連絡をしていただけることが条件になります。また、送迎車にご自身で安全に乗車できることを確認させていただいています。
しかしご利用者の中には、移動時の付き添い対応や、認知症で易怒性がある方、不安が強く常に職員の声かけが必要な方もいらっしゃいます。
ご本人が「来たい」「楽しい」と思ってくれているのであれば、安心して過ごすことができる環境を、職員が可能な限りサポートしたいと思っています。

※注：各施設により異なるために、詳細は問い合わせをお願いします。

次号は役割やご利用者の変化点について掲載します。お楽しみに!!



役割って何？

Q 自宅訪問や相談・ つながりの役割

A 医療スタッフとは異なり、自宅の中まで確認することはあまりないですが、例えば、利用中は身なりが整っている方でも、玄関先の片付けが煩雑になっているなど、**生活状況や変化点の確認**を行っています。
また、**相談ごと**に関しても、ご本人がリラックスできる場所で、**金銭面**や**生活での困りごと**など、様々な悩みの確認をしています。必要に応じて、**地域包括支援センター**や**社会福祉協議会**など関連職種への**つながり支援**を行っています。

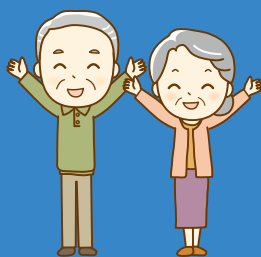
Q 送迎がある集いや 生活支援の役割



A **送迎がある集い**の時は、運転手しかいないですが、荷物を運ぶお手伝いをしながら、**日常的な買い物支援**を行っています。月に1回程度は、遠方に買い物に行っており、その際は職員が同行するため、金銭管理や食事面など、普段確認のできない内容の聞き取りを行いながら関わっています。
また、希望により**受診や行政の手続きの同行**も行います。最近では自宅で転倒後に、食事を食べていない方がいらっしゃり、受診に同行するなど都度対応をするようにしています。

ご利用者の変化点を聞きました

Q ご利用者の 変化点



A ご夫婦で利用していただいている方で、旦那様は自宅でも易怒性があり、**利用開始当初は、慣れない場所**に来たことで、怒ることが多々ありました。そのため、**まずは人との交流を楽しんでいただく**とともに、人に教えることが得意な方だったので、職員が様々なことを教えていただきながら、声かけなどの対応をしていました。
利用から**2カ月程度経過**すると、「僕は女性がすきやき。」と**ニコニコ**しながら来ていただいています（笑）。また、ご自宅ではお酒を飲むことが多く、ご飯を食べることが少なかったのですが、**皆様**と外出先での**食事やお弁当を一緒に食べる**ことで、**少しずつ食事量も増えて**おり、外出することは非常に大切だと感じました。
利用開始当初は奥様から「しんどい」と聞かれることもありましたが、現在は自宅で怒ることもなくなり、奥様から**「ここに来てよかった。」**とおっしゃっていただきました。今では奥様が自宅で作ったお菓子を持参してくれることもあります。奥様の作るパウンドケーキは本当においしいんですよ(^^)。
また、**他のご利用者の方々**からは、当施設のように意識的に外出できる場所があることで、**「落ち込みがなくなった」**など、**気持ちの変化**を教えてくださいることが多々あります。

Q 男性は社会参加に 消極的な 印象ですが、 男性の集いは？

A 当施設の**男性同士の集い**（Gの会）は、閉じこもり傾向など**地域交流に馴染まない方や認知症の方**がいらっしゃり、**皆様がしたいことを話し合い、活動内容を決定**しています。
まずは、外出に対して意識を向けていただくことが大切だと思っています。友人ができて一緒に外出したり、老人クラブや体操教室への参加に繋がった方もいらっしゃいます。**主体性を大切にすることで、活動意欲に繋がっている**のではないかと思います。

＜地域共生社会の拠点＞ あったかふれあいセンターってどんなところ？ Vol.3

完結！

●リハビリテーションスタッフへメッセージ

日々の生活を支援するだけではなく、ご本人が「やりたいこと」「したいこと」を実現するために、退院後の暮らしを日々意識していただくことが大切だと思います。退院支援の際に、介護給付サービスは制度が整えられているために、円滑に繋ぎやすいと思います。しかし、**インフォーマルサービスはその方が住む地域へ繋ぐ支援**となります。例えば、「退院後に地域の体操教室に行きたい。」地域の方々も「あの人にまた来てほしい。」と想着いても、「皆で体操をする場所は受け入れてもらえるか不安だ・・・」などの困りごとがあれば、お力になれることもあるので、**あったかふれあいセンターなどの地域に近い存在を頼っていただいても良いと思います☆**

以前にこんな方がいらっしゃいました・・・

退院後に当施設の利用を希望している方がおられましたが、1年以上利用に繋がらなかった方や、介護給付サービスの日程を調整していただくことで、利用が可能になる方もいらっしゃいました。



そこで私は、**医療・介護・地域での連携が大切だと思います！**

退院支援などの際に、インフォーマルサービスへ繋げる必要がある方に関しては、ケアマネジャーや病院スタッフの方々からご連絡をいただき、連携させていただけることは、皆様が住み慣れた地域で元気に過ごしていただくためにも、重要な連携であり、私たちも非常にありがたいです。

●長崎氏が想う地域支援事業で大切なこと

私は、ご利用者の方々と関わる上で、事前情報や評価内容は大切であると思います。しかし、専門職として先入観を持ち関わることで、ご利用者の方々は、人との**交流を楽しみにきてくれる**にも関わらず、「自分のことを知ろうとされる」ことや、「支援されている」と感じることは、不安になると思います。その方の人柄を知るためには、**先入観にとらわれない**ような心構えが必要であると思います。

私たち**スタッフが日々大切にしていることは、職員が全力で楽しむ**ことで、皆様が楽しんで過ごしていただけたと思っています。

皆、ここで友達になつた人ばかりよ。

いの町
あったかふれあいセンター
長崎 早津紀 氏



買い物も皆で話しながらしたら楽しいね。



ここに来るときは、準備もして化粧もして出かける機会があるっていいことやね。

皆さん元気ハツラツでした!!

取材・文責 広報編集部／田上 大祐（仁淀病院）

取材を終えての感想

取材当日は、体操の後にクロスワード等の脳トレを行っており、現場で一番感じた事は、スタッフや参加者全員が笑顔で過ごしており、私自身身圧倒されるような活気も感じました。

取材を通してご利用者が「したい、やりたい」ことを大切にすることや、「楽しい、また来たい」という主体性の大切さを学びました。

関わり方についても、地域や病院で活動するスタッフでは、目線や意識について対応の違いがあり、私自身も臨床の中で患者様の情報収集をする為にコミュニケーションを図っていますが、不安に繋がることもあると知りました。まずは、人柄を知り、関係性を構築することが大切であり、日々の関わり方について考え直していきたいと思いました。

取材同行者 広報編集部／澤田 直樹（いすみの病院）